

Current Affairs
20 May 2022

ウクライナ戦争を終らせる方法

How the War in Ukraine Can Be Ended

<https://www.currentaffairs.org/2022/05/how-the-war-in-ukraine-can-be-ended>

Anatol Lieven *

第二部

Q：二重基準を作り、ロシアが従うよう求める

私たちは、かなり悪い前例を作り、その基準に彼らが従うことを期待しているのかも知れません。

リーヴェン：

ロシアから見れば、アメリカは冷戦終結後、国際的な法規範をずたずたにしました。もちろんロシアも同類ですが、人に説教する権利などないのです。

ロシアはアフガニスタンに同情的でした。イラクやリビアで何が起こるか警告しました。今ではそれが完全に正しかったことが判明しています。

だから、もう何年も前から、アメリカから国際法秩序についての講義を受ける気は全くないのです。

しかし、もう一度、この点だけはっきりさせたいと思います。

ロシアが侵攻した理由を説明することは、ロシアの侵略に同調することを意味しません。

彼らはウクライナ人が兄弟的な民族であると主張し、そして彼らを虐殺します。

ウクライナのロシア人とロシア語を話す人々の権利を守ると主張しながら、彼らを虐殺し、彼らの都市を破壊します。

当初は地元住民の支持や共感、少なくとも黙認が重要だと認識していたのに、自分の部隊が盗賊のような殺人者や泥棒のような振る舞いをするのを許してしまいました。

とくに情報機関のお粗末さは西側の情報機関と比べ物になりません。プーチンのお膝元の機関が、容易に浸透可能な隣国の情報を対象としているだけに、このテイタラクはまったく弁解の余地がありません。

プーチンの作戦思想は明らかに、ウクライナは本当はロシアに従属する準国家であって完全な国家ではないという信念を前提にしていたと思います。

Q： プーチンの作戦はなぜ裏目に出たか

私はニューオーリンズに住んでいるのですが、フレンチクォーターを歩いていたら、バルコニーからウクライナの国旗がみっしりとぶら下がっています。

このことが、ロシアの作戦がどれほど裏目に出たかを示しています。彼らはウクライナに対する国際的な同情を爆発させた。それはプーチンが最も望んでいなかったことでしょう。

リーヴェン：

もともとウクライナは、ウクライナ民族ナショナリズムの強い西部と、ロシア語を話し、歴史的にロシアとの結びつきが強かった南部・東部の間で深く分裂していました。

侵攻開始前、多くのアナリストは、ウクライナの大部分は戦う気がなく、ロシアを歓迎しないとしても、少なくとも何もせず黙っているだろうと考えていた。

この侵攻を通じて、ロシアのそしてプーチンの最大の敗北と言うべきものは、ウクライナ人が国家であることを証明したことです。

そして、ある意味、ウクライナの NATO 加盟の是非をめぐる議論はもはや無意味になりました。ウクライナの 80~90%が西側へ、そしてロシアから離れることになるでしょう。そのことについては、もう議論や論争の可能性はないのです。

ロシアの歴史的な観点から見ても、そしてプーチンが最初に達成したかったことを考えても、これは完璧な大敗北です。

プーチンは、自分自身とロシアを完膚なきまでに叩きのめしました。

Q: **米国の現在の対応の評価**

現在の米国の政策は、状況をより危険なものにし、外交的解決の可能性を低くする可能性があるでしょうか。

リーヴェン：

ニューヨーク・タイムズのロス・ダウトの記事と、トーマス・フリードマンの記事がありますが、まさにこのことを警告しています。

第一に戦争の長期化です。

この戦争は永遠に続くわけではありませんが、非常に長い間続くことを意味します。

もしウクライナが 2014 年以來ロシアが保持している地域からロシアを追い出すために攻勢に出るのなら、それはこれまでの防衛戦とは全く異なる問題です。

ロシアは既存の陣地を守ることになり、ウクライナ人は大量の死傷者を出すことになります。

第二に、世界経済への影響です。

ゴールドマン・サックスのロイド・ブランクファインは、私の好きな人物ではありませんが、世界経済について造詣は深いのだらうと思います。

彼は、エネルギー価格と世界的な食糧価格の上昇により、米国と世界の景気後退の脅威を警告しています。

中東やアフリカ、そしてインドで起きている猛暑を見れば、戦争と欧米の制裁は、極めてネガティブで予測不可能な影響を及ぼす危険性があります。

「アラブの春」を見ればわかるように、米国の重要な同盟国であるエジプトのような場所でも、政治的に極めて不安定になるでしょう。

しかし、その前に2つ。

クリミアの軍事的奪還はほぼ不可能です。ウクライナがクリミアの奪還に乗り出せば、この戦争は本当に永遠に続くこととなります。

クリミアは海に囲まれた半島ですから。NATO が実際に飛行機を飛ばして戦争する覚悟がない限り、ロシア海軍は黒海で優位に立ち続けるでしょう。

制海権が確保できなければ、ウクライナがクリミアを征服することは物理的に非常に困難です。

もうひとつは、各仕様の恐怖です。以下はロシア人情報通の友人に聞いた話です。

「いいか、2014年以降、ロシア政府によれば、そして大多数のロシア人によれば、そして大多数のクリミア人によれば、クリミアは今やロシアの国土の一部である。そのことを忘れてはいけない。

我々は何のために核兵器を持っているのか。ロシア連邦の領土を守るためだ。そのためにあるのだ。もしNATO がロシアをクリミアとセヴァストポリから追い出す決意を固めたとしたら、それは核兵器が使われるときだ。

核兵器の使用はあり得る。だが、少なくとも最初は、非核・非実弾ミサイルによる威嚇射撃が行われるだろう」

冷戦時代、トルーマンからジョージ・H・W・ブッシュまで、すべてのアメリカ大統領と政権中枢の政治家たちは、核戦争に対して真剣に恐怖を感じていました。事故や意図しない戦争へのエスカレーションの可能性を認識していました。

だから、核戦争を引き起こすことのないように細心の注意を払っていました。しかしいま、西側諸国は恐ろしいほどの自己満足に陥っているように思えます

Q： 核使用の現実性について

少なくともロナルド・レーガンには、核戦争には決して勝てない、だから戦ってはいけないと言う知恵があった。しかし今はどうか。2週間前のウォール・ストリート・ジャーナル紙には、「アメリカは核戦争に勝てることを示すべき」という論説が掲載されたのです。

リーヴェン：

私は左派の友人たちを持っています。彼らは "**プーチンのシンパに見られたいのか？**"と聞いてくるのです。

「いや、そんなことはない。でも逆に聞きたい。あなたはカーティス・ルメイのシンパのように思われたいのか？」

でも、もうほとんどの人はカーティス・ルメイなんか覚えていないから、その代わりに架空の人物、たとえば『Dr. Strangelove』とかですね。（キューブリック監督の映画『博士の異常な愛情』に由来）

Q： ウクライナ戦争が制御不能となる可能性

あなたは侵攻前に「The Nation」にこんな記事を書いていたね。"Ukraine, the Most Dangerous Problem in the World"という長文の特集です。

あなたは、「それが世界で最も危険な問題である理由は、その脅威がウクライナ・ロシア紛争の範囲だけでないからだ。そして、この紛争が制御不能に陥る経路があるからだ」と述べました。

「それはクリミアにさらに追い打ちをかける可能性である」とおっしゃっていましたね。

しかし、この紛争が本当に拡大するならば、主な経路はどこだとお考えか、詳しく説明してください。

また、第一次世界大戦を引き合いに出されていましたが、これは興味深いことだと思います。

第一次大戦の教訓は、政治家たちが、自分たちのやっていることを確信していたのに、突如として巨大な世界的大戦争を引き起こしてしまったことです。そういう可能性があるのだということです。

LIEVEN

プーチンはますます孤立した存在になっています。いまや彼は、老いた独裁者の特徴を多く持っています 切り離され、孤立し、助言に耳を貸さず、狭い範囲の人々に依存する独裁者です。

プーチンがウクライナに侵攻したとき、彼とその直属の権力者たちは、彼らなりに現実主義的な行動をしていると考えたでしょう。そのことは間違いないでしょう。

しかし、1914年以來、強硬な現実主義者は、現実と真の国益を判断する際に、最も非現実的な人物になり得ることが判明したのです。

何度も言いますが、110年前を思い返してみてください。

良識ある人で、1914年にヨーロッパの指導者たちが戦争に突入するとき、戦略的な優先順位を正しく判断したと考える人がいるのでしょうか？

それでは100年先を考えてみましょう。

気候変動に関する予測が正しいとしたら、100年後にどれだけの人が次のように考えていると思いますか？

ドンバスの主権が、21世紀の第二四半期にアメリカや西側諸国、あるいはロシアが直面する最も重要な脅威であったと。

私たちは優先順位を完全に間違えています。

ジョン・ミアシャイマーらも指摘するように、アメリカの利益を考えれば、ウクライナ東部の一部に対する支配は小規模で、優先度は非常に低いものです。

しかし、ロシアに完全な敗北を押し付けようとするアメリカの攻撃的な人々にとっては甘いデザート、「民主主義の画期的な前進」というケーキなのです。

Q： 世界の存在をかけた問題だという認識

結局いつも「民主主義のための戦い」なのですね。

LIEVEN：

たしかにその通りです。しかしこんなに「法に基づく秩序」が強調され、その標語のもとに世界の将来がすべてウクライナ戦争に託されるというよう極端な状況は初めてです。

もしプーチンが実際にウクライナ全土の征服・制圧に成功していたら、話は変わっていたでしょうが、いまは彼ら自身が基本的に反撃戦だと言っているのです。

もう民主主義を守るとか、世界秩序を守るとか、そういう話じゃなく、東ウクライナの限られた領土のために戦うということです。これは率直に言って、核戦争の脅威を云々するほどのレベルではありません。

最近、映画「The Day After」を見ました。そのせいでちょっと気分が陰鬱になっています。

エンディングで、アメリカの大統領がラジオで演説して、米ソの停戦を宣言します。

聞いている人は全く無関心で、もうみんなが死んだから、残りの人はどうでもよいのです。彼らは廃墟に住み、家族のほとんどが死にました。生きていた人たちも、放射能汚染でもうすぐ死んでしまうでしょう。

だから、核戦争の後にドンバスで領土問題を解決しても、生き残った人たちにとっては、何ほどのことでもないのです。

Q： アメリカが妥協に乗り出せばおさまるか？

『ベッドフォード事件』という冷戦時代の名作もある。

アメリカの船長がロシアの原子力潜水艦を追いかけ、次第に執着するようになる。このロシアの原子力潜水艦との対決から引き下がることができず、結局、小説『白鯨』と同じ大惨事につながっていく。

屈辱や敗北を避けるために引き下がれない当事者が二人いる状況です。これは、対人関係においても、最も危険な状況です。

リーヴェン：

しかし、違うのはアメリカには屈辱がないことです。ウクライナがロシアと妥協するのを助けても、何も名誉に傷がつくわけではありません。

アメリカは、私が言うように、すでに多大な勝利を収めているのです。もちろん、プーチンにはとてつもない屈辱がありますね。

私はもう一つ、キューバ危機の際に実際に起こった、幸運にも逆の結果になった事件についてお話しします。

ヴァシリー・アルキポフ（核発射を阻止したソ連海軍将校）の話をご存じでしょう。アメリカの駆逐艦が練習用の手榴弾を投下し始めたとき、彼がソ連

の原子力潜水艦に乗っていなかったら、私たちは誰もここにいなかったかもしれませぬ。

Q：米国の賢明な政策とはどのようなものか？

それでは最後の質問に移ります。それはこの紛争が終結するためのベストシナリオについてです。米国の賢明な政策とはどのようなものでしょうか。

リーヴェン：

ロシアは、戦争が始まって以来、新たに占領したすべての領土から撤退しなければなりません。

それから、さまざまな問題に交渉による決着をつけなければなりません。

クリミアとドンバスで、際限のない紛争と核戦争のリスクが続くのならば、ウクライナに戻ることを強制するのではなく、国際的な監視のもと住民投票を行い、どこに行きたいかを住民に問えばいいのです。

そうすれば、ロシアが和平を結ぶのに十分な条件を実現することができるでしょう。

NATO加盟についてはウクライナに加盟を提案するつもりはないので、中立条約が必要です。そこにはロシアが条約に違反した場合に自動的に始まる制裁と軍事供給を組み込むことになるでしょう。

私はこれをアメリカの正式な方針にせよと言っているわけではありません。ただこれが私の希望だと言っているのです。

ロシア政府、ロシアの支配層、そしてロシア国民が腰を落ち着けて、考え直すことを期待したい。プーチンが自分たちをいかに災難に導いているかを、本心から実際に認識してもらいたいのです。

私自身は、ロシアでプーチンを排除するための大規模な運動が起こり、それが成功することを望んでいます。

しかし、それはロシア人の手によるものでなければならない。仮にアメリカのキャンペーンが成功したとしても、正当性や安定性を欠き、おそらくひどい状況で倒れるでしょう。

ちなみにエリツィンはアメリカの助けで政権を取ったと広く見られています。

こういう方向、それが私の希望です

Q：バイデン政権の「プーチン打倒」発言は甚だしく逆効果

バイデン政権がプーチンを倒したいとほのめかすのは、甚だしく逆効果だと思いますが。

リーヴェン：

一国の政権を打倒する計画は、いったいどこでうまくいったのでしょうか？

キューバでうまくいったか？ いいえ

イランは？イラン？ 北朝鮮は？

明らかに違う。

ベネズエラは？ それも違う

つまり一貫して政権交代の失敗が続いているのです。

唯一成功したのはイラクですが、もちろん武力侵攻したからできただけです。

Q：「ウクライナの意向」とはなにか？

最後にもう一つ。現在のウクライナの立場はどうなのでしょう。

紛争の最中にあるウクライナの世論を把握することは困難ですが、アメリカ政府が「ウクライナの意向に従うべきだ」と発言するのは、何らかの外交的解決を促すことへの反論にもなっているので、あえて聞きたいと思います。

ゼレンスキーが「武器を与えよ」と叫んでいるのは聞こえてきますが、それ以上のものを求めているのか、そのあたりはあまり聞きませんね。

リーヴェン：

非常に重要なことが2つあります。

まず、ウクライナは3月に、交渉の際の原則を打ち出しました。この和平提案は、私が確認したところでは、ウクライナ大統領のウェブサイトはまだ掲載されています。

それは平和的解決のための非常に賢明な提案です。

しかし、アメリカからの公的支援は一切ありませんでした。つまりアメリカはウクライナ政府の戦争継続の意向には従うが、和平の意向には従っていないのです。

もしアメリカの真の意向が、ロシアに対する代理戦争の継続であるなら、それは平和への希望に真っ向から反するものです。

第二に、ウクライナ政府内には異なる勢力が存在することを認識することです。

ゼレンスキーはこれまで2度、ウクライナの極端な民族主義者たちから猛烈な攻撃を受けました。ロシアとの妥協的和平の可能性を示唆したことが原因です。その中にはもちろん軍隊も含まれています。

私が戦争開始前に集めた情報では、ゼレンスキーは西側諸国の主要政府を訪れ、こう尋ねました。

「合理的な期間内に NATO に加盟することを保証してもらえますか？」

相手は皆、「ノー」と答えました。

そこで彼はこう提案しました。これはフランスの複数の高官筋からの情報です。

「それなら、私たちのために中立条約を提案してくれませんか、そうすれば私はこれを交渉の基礎として受け入れます」

するとフランスとドイツは、「そんなことは提案できない」と言いました。もちろん、ワシントンとの衝突を恐れたからです。

そしてこう付け加えました。

「しかし、もしあなたがそれを提案すれば、私たちはそれを支持できるかもしれませんが」

ゼレンスキーはこう答えました。

「そんなことをしたら国内の超国家主義者の間で猛烈な反対と怒りが起こる。だからそれは自殺行為になる」

つまり、片方が「あなたが提案するならば、私はそれを支持します」といえば、もう一方も同じことを言っているのです。

戦争は避けられるし、双方がそれを望んでいたのですが、それは不可能だったのです。誰かが不可能にしたのです。

要は、ウクライナ国内に極度の政治的分裂があり、ゼレンスキーの裁量がきわめて限られていることであり、もう一つはヨーロッパ諸国は正直言ってもはや耐用年数が過ぎており、アメリカの召使いとして生きていくしかないという事実です。

客観的に見て、アメリカが主導権を握るほかない状況があります。

しかしそれだけではありません。アメリカは紛争激化の方向で積極的に関わっています。

アメリカは巨額の援助を行っています。今年のウクライナへの援助は、今後3年間の中米への援助案の10倍に相当します。これはペンタゴンの基準からしても巨額です。

アメリカは、ウクライナでのロシアとの戦いにのめり込むことで、世界経済の後退をもたらし、アメリカの同盟国の食糧価格高騰をもたらし、それに対する国民の反乱をもたらし、世界中の地域を危険にさらしているのです。

もちろんアメリカには、この戦争をどう終わらせるかについて発言する権利があります。

しかし何を語ろうと、それは純粋な偽善に過ぎません。それは平和を実現しようとする意志がないことを隠すための言い訳に過ぎません。

(了)

.....